

## 審査意見への対応を記載した書類（6月）

### （目次） 北陸大学大学院医療保健学研究科医療保健学専攻（M）

1. 本専攻のディプロマ・ポリシーについて、「1）健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。（DP1）」や、「2）高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。（DP2）」を掲げているが、「高い専門性」や「質の高い医療技術」が、具体的にどのようなことを想定しているのか判然とせず、ディプロマ・ポリシーが適切に設定されているとは判断することができない。このため、ディプロマ・ポリシーに掲げる「高い専門性」や「質の高い医療技術」について、具体的にどのようなことを想定しているのか明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）・・・3
2. 審査意見1のとおり、ディプロマ・ポリシーに掲げる「高い専門性や「質の高い医療技術」が具体的にどのようなことを想定しているのか判然としないため、ディプロマ・ポリシーに整合した教育課程が適切に編成され、各授業科目の到達目標が適切に設定されているとは判断することができない。このため、審査意見1への対応を踏まえつつ、本専攻の教育課程や各授業科目の到達目標が妥当であることについて、明確かつ具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。  
（是正事項）・・・10
3. 「領域科目」の授業科目「病態分析検査学演習」のシラバスを確認すると、授業計画に「討議」が含まれているが、本専攻の入学定員は3人であり、領域ごとの学生数の内訳に関する説明がなく、当該科目を選択する者が1人になった場合「討議」を行うことができない状況が想定されるため、教育効果を十分にあげられる授業計画になっているのか疑義がある。このため、科目選択をする学生が1人になった場合に、どのようにして教育効果を担保することを想定しているのかについて具体的に説明すること。（改善事項）・・・22
4. 「設置の趣旨等を記載した書類（本文）」の「9（1）①2）選抜方法」において、「筆記試験（外国語（英語））、面接（口述試験を含む）、出願書類（志願理由書等）等による総合判定とする。」と記載しているが、「等」の内容が判然としないことから、ここで示されている選抜方法以外の選抜方法が不明確である。このため、入学者選抜を公正に実施する観点から、入学志願者に対して選抜方法を明確に示す必要があることを踏まえ、選抜方法が明確になるよう適切に改めること。  
（是正事項）・・・23

5. 「設置の趣旨等を記載した書類（本文）」の「1（3）⑤アドミッション・ポリシー」において、「1）臨床検査学、理学療法学及び関連領域の基礎的な知識・技術を有している人（AP1）」と説明しており、同資料の「9（1）①3）APと一般入試の関係性」において、AP1を判定する方法の一部として「筆記試験（外国語（英語））」が設定されているが、AP1と外国語（英語）との関連についての説明がなく、一般入試にのみ当該評価方法を設けている理由が判然としない。このため、本専攻が定めるAP1を踏まえ、一般選抜が適切に実施されることについて具体的に説明した上で、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）・・・24
6. 「設置の趣旨等を記載した書類（本文）」の「12（2）校舎等施設の整備計画」において、「太陽が丘3号棟及び4号棟は、講義室、演習室、実験研究室、実習室、実習用機器・備品が整備されており、各施設及び備品を学部と共用する。」と説明しているが、本専攻の研究領域ごとに必要な実習用機器や備品が適切に整備されているか判然としない。このため、研究領域ごとに整備されている実習用機器や備品を明らかにした上で、本専攻の教育研究に支障がないことを具体的に説明すること。（是正事項）・・・26
7. 「設置の趣旨等を記載した書類（資料）」の「資料6 医療保健学研究科 医療保健学専攻カリキュラム・マップ」において、例えば「医療保健学研究法特論」はDP1に強く関連（◎）、DP2にやや関連（△）、DP3に関連（○）と表記されている一方で、同書類の「資料5 医療保健学研究科医療保健学専攻 人材養成の目的と3つのポリシー対応表」においては、「医療保健学研究法特論」が位置づけられているCP1からDP3には矢印が伸びていない。また、資料6において「医療保健学特論」はDP1に強く関連（◎）、DP2に関連（○）と表記されている一方で、同書類の「資料7 医療保健学研究科医療保健学専攻 カリキュラム・ツリー」においては、「医療保健学特論」からDP3にも矢印が伸びている。これら資料間で不整合が見受けられるため、申請書類の不整合について、網羅的に確認した上で、適切に改めること。（是正事項）・・・28
8. シラバスによると、「生活機能回復学特論」と「生活機能回復学演習」の「授業の概要と目的」において、同一の説明がなされているため、両科目の違いが判然としない。このため、当該授業科目の内容に照らし適切な表現に改めることが望ましい。（改善事項）・・・32

(是正事項) 医療保健学研究科 医療保健学専攻 (M)

1. 本専攻のディプロマ・ポリシーについて、「1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。(DP1)」や、「2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。(DP2)」を掲げているが、「高い専門性」や「質の高い医療技術」が、具体的にどのようなことを想定しているのか判然とせず、ディプロマ・ポリシーが適切に設定されているとは判断することができない。このため、ディプロマ・ポリシーに掲げる「高い専門性」や「質の高い医療技術」について、具体的にどのようなことを想定しているのか明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

本研究科では、臨床検査学領域又は理学療法学領域における高度専門職業人の養成を目標としている。ディプロマ・ポリシーにある「高い専門性」や「質の高い医療技術」について、具体的に想定しているものが判然としないとの審査意見1のご指摘を踏まえて、ディプロマ・ポリシー及び人材養成の目的等について改めて確認した。

本研究科のディプロマ・ポリシーは、  
「本研究科では、人材養成の目的に沿って以下の要件を満たし、所定の単位を修め、必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査及び試験に合格した者に対し、修士(医療保健学)の学位を授与する。」

としており、人材養成の目的に基づきディプロマ・ポリシーが策定されている形とすることから、ご指摘のあった「高い専門性」や「質の高い医療技術」の具体的な内容については、人材養成の目的に具体的かつより明確な表現を追記することとした。

まず、設置の趣旨等に記載したことに改めて言及するが、我が国においては、急速な高齢化をはじめとする社会構造の変化、医学の進歩や医療技術の高度化による疾病・障害構造の変化、並びに国民の生活環境や生活習慣の変化など、様々な変化が急速に進んでいる。このようななか、国民が充実した生活を送るためには、心身の健康、疾病、障害に対応する医療専門職の専門性の向上が求められている。臨床検査技師は、臨床医学の領域に限らず、生活指導、予防医学に関するあらゆる領域において活躍できる職種であり、社会のニーズに合わせ柔軟に対応する必要がある。また、リハビリテーション専門職は、患者の高齢化が進むなか、患者の運動機能を維持し、QOL向上を推進する観点から、病棟における急性期の患者に対するリハビリテーションや在宅医療における訪問リハビリテーションの必要性が高まるなど、医療現場における役割が大きくなっており、理学療法士の職域も、急性期、回復期、

生活期における自立支援、生活環境改善、肢体不自由児・者への生活機能アプローチに加え、健康増進、予防、保健活動、地域リハビリテーションマネジメント等の領域における活動があり、医療機関だけでなく、保健、福祉、スポーツなど、様々な分野に活躍の場が広がっている。

このことから、本研究科では、臨床検査技師、理学療法士をはじめとする医療専門職は、社会の変化と共に求められる役割も変化し、必要となる知識・技術が今後もさらに高度になると考え、現行（変更前）の人材養成の目的を設定した。

ご指摘のあった「高い専門性」とは、臨床検査学や理学療法学の領域において、健康増進、疾病・障害の予防、保健活動や生活指導などの役割や必要性を理解し、保健医療や地域医療の課題、疾病や障害構造の変化に対応できる能力であり、「質の高い医療技術」とは、医療技術を提供するために必要な臨床所見を科学的に分析する研究法と科学的根拠に基づく課題解決力・実践力であることを示し、それらを身につけたうえで、次の領域の医療技術を提供できる人材であることを明確に明示した。

#### 【臨床検査学領域】

臨床現場で検査情報を有効活用するための専門的知識及び分析技術、感染症の原因及び感染制御に関する専門的知識、臨床現場における課題を解決するための研究手法を修得し、科学的根拠に基づき、状況に応じた医療技術と課題解決策を提供できる人材を養成する。

#### 【理学療法学領域】

運動器等に起因する身体運動機能障害及び先天障害や認知症、発達障害を含む心身機能の障害や加齢等に起因する生活機能障害の専門的知識・技術、臨床現場における課題を解決するための研究手法を修得し、科学的根拠に基づき、状況に応じた医療技術と課題解決策を提供できる人材を養成する。

上記内容について、新たに人材養成の目的に追記・修正するが、本研究科を設置する趣旨や必要性、教育課程の編成の体系性、授業科目の中で既に記載している内容を追記・修正したものであり、本研究科の人材養成の目的の考え方を変更するものではない。

したがって、上述した本研究科の人材養成の目的とディプロマ・ポリシーの関係性から、人材養成の目的に追記・修正することによって、ディプロマ・ポリシーの内容も明確になることから、現行のディプロマ・ポリシーの内容を変更しないこととする。

なお、受験生や大学院生、保護者、地域社会に向けて、本研究科の教育理念、人材養成の目的と本研究科が養成する人材における「高い専門性」や「質の高い医療技術」、教育方針（3つのポリシー）を、大学院案内、入学選抜概要、履修要項、ホームページ等で周知し、理解を深めることとしている。

(新旧対照表) 別記様式第2号 (その1の2) 基本計画書 (1 ページ)

新	旧
<p>新設研究科等の目的</p> <p><u>臨床検査学や理学療法学の領域において、健康増進、疾病・障害の予防、保健活動や生活指導などの役割や必要性を理解し、保健医療や地域医療の課題、疾病や障害構造の変化に対応できる高い専門性を有し、臨床所見を科学的に分析する研究法と科学的根拠に基づく課題解決力・実践力を身につけ、質の高い医療を提供できる高度専門職業人を養成することを目的とする。</u></p>	<p>新設研究科等の目的</p> <p><u>医療保健学に関する高度な専門的知識と研究能力・実践力を身につけ、質の高い医療を提供できる高度専門職業人を養成することを目的とする。</u></p>

(新旧対照表) 北陸大学大学院学則 (案) (1 ページ)

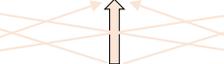
新	旧
<p>第2章組織 第3条 (養成する人材) (1) 医療保健学研究科医療保健学専攻</p> <p><u>臨床検査学や理学療法学の領域において、健康増進、疾病・障害の予防、保健活動や生活指導などの役割や必要性を理解し、保健医療や地域医療の課題、疾病や障害構造の変化に対応できる高い専門性を有し、臨床所見を科学的に分析する研究法と科学的根拠に基づく課題解決力・実践力を身につけ、質の高い医療技術を提供できる下記領域の高度専門職業人を養成する。</u></p> <p><b>【臨床検査学領域】</b></p> <p><u>臨床現場で検査情報を有効活用するための専門的知識及び分析技術、感染症の原因及び感染制御に関する専門的知識、臨床現場における課題を解決するための研究手法を修得し、科学的根拠に基づき、状況に応じた医療技術と課題解決策を提供できる人材を養成する。</u></p> <p><b>【理学療法学領域】</b></p> <p><u>運動器等に起因する身体運動機能障害及び先天障害や認知症、発達障害を含む心身機能の障害や加齢等に起因する生活機能障害の専門的知識・技術、臨床現場における課題を解決するための研究手法を修得し、科学的根拠に基づき、状況に応じた医療技術と課題解決策を提供できる人材を養成する。</u></p>	<p>第2章組織 第3条 (養成する人材) (1) 医療保健学研究科医療保健学専攻</p> <p><u>医療保健学に関する高度な専門的知識と研究能力・実践力を身につけ、質の高い医療を提供できる高度専門職業人を養成することを目的とする。</u></p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (本文) (5 ページ)

新	旧
<p>1 設置の趣旨及び必要性</p> <p>(3) 人材養成の目的及び3のポリシー</p> <p>② 人材養成の目的</p> <p><u>臨床検査学や理学療法学の領域において、健康増進、疾病・障害の予防、保健活動や生活指導などの役割や必要性を理解し、保健医療や地域医療の課題、疾病や障害構造の変化に対応できる高い専門性を有し、臨床所見を科学的に分析する研究法と科学的根拠に基づく課題解決力・実践力を身につけ、質の高い医療技術を提供できる下記領域の高度専門職業人を養成する。</u></p> <p><u>【臨床検査学領域】</u></p> <p><u>臨床現場で検査情報を有効活用するための専門的知識及び分析技術、感染症の原因及び感染制御に関する専門的知識、臨床現場における課題を解決するための研究手法を修得し、科学的根拠に基づき、状況に応じた医療技術と課題解決策を提供できる人材を養成する。</u></p> <p><u>【理学療法学領域】</u></p> <p><u>運動器等に起因する身体運動機能障害及び先天障害や認知症、発達障害を含む心身機能の障害や加齢等に起因する生活機能障害の専門的知識・技術、臨床現場における課題を解決するための研究手法を修得し、科学的根拠に基づき、状況に応じた医療技術と課題解決策を提供できる人材を養成する。</u></p>	<p>1 設置の趣旨及び必要性</p> <p>(3) 人材養成の目的及び3のポリシー</p> <p>② 人材養成の目的</p> <p><u>医療保健学に関する高度な専門的知識と研究能力・実践力を身につけ、質の高い医療を提供できる高度専門職業人を養成する。</u></p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類(資料) 資料5 医療保健学研究科医療保健学専攻人材養成の目的と3つのポリシー対応表

(36 ページ)

新				旧			
<b>【資料5】</b>				<b>【資料5】</b>			
<b>医療保健学研究科医療保健学専攻 人材養成の目的と3つのポリシー対応表</b>				<b>医療保健学研究科医療保健学専攻 人材養成の目的と3つのポリシー対応表</b>			
<b>教育理念</b>		健康社会の実現に貢献できる高度な医療技術者の養成をとおして、地域社会の保健・医療・福祉の向上に寄与する。		<b>教育理念</b>		健康社会の実現に貢献できる高度な医療技術者の養成をとおして、地域社会の保健・医療・福祉の向上に寄与する。	
<b>人材養成の目的</b>		臨床検査学や理学療法学の領域において、健康増進、疾病・障害の予防、健康活動や生活支援などの役割や必要性を理解し、保健医療や地域医療の課題、医療や健康増進の場に対応できる高い専門性を有し、国際性を基学的に分析する研究力と科学的知識に基づき課題解決力・実践力を身に付け、質の高い医療技術を提供できる下記領域の高度専門職職人を養成する。 【臨床検査学領域】 臨床検査学を有効活用するための専門的知識及び分析技術、検査法の活用及び検査制御に関する専門的知識、臨床現場における課題を解決するための研究手法を修得し、科学的根拠に基づき、状況に応じた検査技術と課題解決策を提供できる人材を養成する。 【理学療法学領域】 運動機能に起因する身体運動機能障害及び全身障害や認知症、発達障害を含む心身障害の障害や加齢変化に起因する生活機能障害の専門的知識、社会・臨床現場における課題を解決するための研究手法を修得し、科学的根拠に基づき、状況に応じた医療技術と課題解決策を提供できる人材を養成する。		<b>人材養成の目的</b>		医療保健学に関する高度な専門的知識と研究能力・実践力を身に付け、質の高い医療を提供できる高度専門職職人を養成する。	
							
<b>ディプロマ・ポリシー</b>		本研究科では、人材養成の目的に沿って以下の条件を満たし、所定の単位を修め、必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査及び試験に合格した者に対し、修士(医療保健学)の学位を授与する。 DPI1 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。 DPI2 高度専門職職人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。 DPI3 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。		<b>ディプロマ・ポリシー</b>		本研究科では、人材養成の目的に沿って以下の条件を満たし、所定の単位を修め、必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査及び試験に合格した者に対し、修士(医療保健学)の学位を授与する。 DP1 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。 DP2 高度専門職職人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。 DP3 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。	
							
<b>カリキュラム・ポリシー</b>		本研究科では、人材養成の目的を達成するために以下の方針に基づいて教育課程を編成する。また、学生の履修を支援するために、シラバスとともに、科目間の連携や学習の順序をカリキュラム・ポリシー、履修モデル等で明示する。 CPI1 高度専門職職人として基礎となる医療保健学の幅広い知識と倫理観を修得するとともに、人体の機能を多面的に理解するために、「基礎科目群」/「専門科目群(共通科目)」を配置する。 CPI2 保健医療における課題及び臨床検査学、理学療法学の最新の研究動向を理解する能力を修得するために、「専門科目群(領域科目)」/「各領域の専門的知識を修得する特論科目」/「技術の応用・実践力を修得する演習科目」を配置する。 CPI3 医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、新たな知見に繋がる研究能力を修得するために、「特別研究」を配置する。		<b>カリキュラム・ポリシー</b>		本研究科では、人材養成の目的を達成するために以下の方針に基づいて教育課程を編成する。また、学生の履修を支援するために、シラバスとともに、科目間の連携や学習の順序をカリキュラム・ポリシー、履修モデル等で明示する。 CPI1 高度専門職職人として基礎となる医療保健学の幅広い知識と倫理観を修得するとともに、人体の機能を多面的に理解するために、「基礎科目群」/「専門科目群(共通科目)」を配置する。 CPI2 保健医療における課題及び臨床検査学、理学療法学の最新の研究動向を理解する能力を修得するために、「専門科目群(領域科目)」/「各領域の専門的知識を修得する特論科目」/「技術の応用・実践力を修得する演習科目」を配置する。 CPI3 医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、新たな知見に繋がる研究能力を修得するために、「特別研究」を配置する。	
<b>アドミッション・ポリシー</b>		本研究科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために、以下の能力、目的意識、意欲を持った人を広く受け入れる。 AP1 臨床検査学、理学療法学及び関連領域の基礎的な知識・技術を知っている人 AP2 高度専門職職人として、研究活動や医療技術の提供を通じて、健康社会の実現に貢献したいという意欲がある人 AP3 自己及び他者を尊重し、優れたコミュニケーション能力を有する人		<b>アドミッション・ポリシー</b>		本研究科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために、以下の能力、目的意識、意欲を持った人を広く受け入れる。 AP1 臨床検査学、理学療法学及び関連領域の基礎的な知識・技術を知っている人 AP2 高度専門職職人として、研究活動や医療技術の提供を通じて、健康社会の実現に貢献したいという意欲がある人 AP3 自己及び他者を尊重し、優れたコミュニケーション能力を有する人	

新				旧																							
<p style="text-align: right;">【資料6】</p> <p style="text-align: center;"><b>医療保健学研究科医療保健学専攻 カリキュラム・マップ</b></p>				<p style="text-align: right;">【資料6】</p> <p style="text-align: center;"><b>医療保健学研究科医療保健学専攻 カリキュラム・マップ</b></p>																							
医療保健学研究科医療保健学専攻の教育理念及び人材養成の目的				医療保健学研究科医療保健学専攻の教育理念及び人材養成の目的																							
<p>【教育理念】 健康社会の実現に貢献できる高度な医療技術者の養成をとおして、地域社会の保健・医療・福祉の向上に寄与する。</p>				<p>【教育理念】 健康社会の実現に貢献できる高度な医療技術者の養成をとおして、地域社会の保健・医療・福祉の向上に寄与する。</p>																							
<p>【人材養成の目的】 臨床検査学や理学療法学の領域において、健康増進、疾病・障害の予防、保健活動や生活指導などの役割や必要性を理解し、保健医療や地域医療の課題、疾病や障害様相の変化に対応できる高い専門性を有し、臨床所見を科学的に分析する研究法と科学的根拠に基づき課題解決力・実践力を身につけ、質の高い医療技術を提供できる下記領域の高度専門職業人を養成する。</p>				<p>【人材養成の目的】 医療保健学に関する高度な専門的知識と研究能力・実践力を身につけ、質の高い医療を提供できる高度専門職業人を養成する。</p>																							
<p>【臨床検査学領域】 臨床現場で検査結果を有効活用するための専門的知識及び分析技術、感染症の原因及び感染制御に関する専門的知識、臨床現場における課題を解決するための研究手法を修得し、科学的根拠に基づき、状況に応じた医療技術と課題解決策を提供できる人材を養成する。</p>				<p>【理学療法学領域】 運動器等に起因する身体運動機能障害及び先天障害や認知症、発達障害を含む心身機能の障害や加齢等に起因する生活機能障害の専門的知識・技術、臨床現場における課題を解決するための研究手法を修得し、科学的根拠に基づき、状況に応じた医療技術と課題解決策を提供できる人材を養成する。</p>																							
医療保健学研究科医療保健学専攻カリキュラム				医療保健学研究科医療保健学専攻カリキュラム																							
医療保健学研究科の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				医療保健学研究科の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)																							
医療保健学研究科医療保健学専攻のディプロマ・ポリシー				医療保健学研究科医療保健学専攻のディプロマ・ポリシー																							
ナンバリング	科目名	科目区分	配当年次	1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。(DP1)	2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。(DP2)	3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。(DP3)																					
BS101	医療保健学特論	必修	1	◎	○																						
BS102	医療保健学研究法特論	必修	1	◎	△	○																					
BS103	地域医療連携特論	選択	1	○	△																						
BS104	病態生理学特論	選択	1	○	△																						
BS105	健康医学特論	選択	1	○	△																						
BS106	医療統計学特論	選択	1	○	△																						
BS107	疾患薬理学特論	選択	1	○	△																						
BS108	健康心理学特論	選択	1	○	△																						
BS109	教育方法学特論	選択	1	○	△		△																				
BS110	臨床教育学特論	選択	1	○	△		△																				
SCS201	人体機能学特論	必修	1	◎	○																						
SCS202	人体機能学演習	必修	1	◎	○																						
SCL311	病態分析検査学特論	選択	1	○	◎	△																					
SCL312	病態分析検査学演習	選択	2	○	◎	○																					
SCL313	感染制御学特論	選択	1	○	◎	△																					
SCL314	感染制御学演習	選択	2	○	◎	○																					
SPT321	運動機能回復学特論	選択	1	○	◎	△																					
SPT322	運動機能回復学演習	選択	2	○	◎	○																					
SPT323	生活機能回復学特論	選択	1	○	◎	△																					
SPT324	生活機能回復学演習	選択	2	○	◎	○																					
SR401	医療保健学特別研究	必修	1・2	○	○	◎																					
<p>科目ナンバリング</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>基礎科目群</td> <td>BS (Basic Subject) 100番台</td> </tr> <tr> <td>専門科目群 共通科目</td> <td>SCS (Specialized subjects Common Subject) 200番台</td> </tr> <tr> <td>領域科目: 臨床検査学領域</td> <td>SCL (Specialized subjects Clinical Laboratory) 310番台</td> </tr> <tr> <td>領域科目: 理学療法学領域</td> <td>SPT (Specialized subjects Physical Therapy) 320番台</td> </tr> <tr> <td>特別研究</td> <td>SR (Special Research) 400番台</td> </tr> </table>				基礎科目群	BS (Basic Subject) 100番台	専門科目群 共通科目	SCS (Specialized subjects Common Subject) 200番台	領域科目: 臨床検査学領域	SCL (Specialized subjects Clinical Laboratory) 310番台	領域科目: 理学療法学領域	SPT (Specialized subjects Physical Therapy) 320番台	特別研究	SR (Special Research) 400番台	<p>科目ナンバリング</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>基礎科目群</td> <td>BS (Basic Subject) 100番台</td> </tr> <tr> <td>専門科目群 共通科目</td> <td>SCS (Specialized subjects Common Subject) 200番台</td> </tr> <tr> <td>領域科目: 臨床検査学領域</td> <td>SCL (Specialized subjects Clinical Laboratory) 310番台</td> </tr> <tr> <td>領域科目: 理学療法学領域</td> <td>SPT (Specialized subjects Physical Therapy) 320番台</td> </tr> <tr> <td>特別研究</td> <td>SR (Special Research) 400番台</td> </tr> </table>				基礎科目群	BS (Basic Subject) 100番台	専門科目群 共通科目	SCS (Specialized subjects Common Subject) 200番台	領域科目: 臨床検査学領域	SCL (Specialized subjects Clinical Laboratory) 310番台	領域科目: 理学療法学領域	SPT (Specialized subjects Physical Therapy) 320番台	特別研究	SR (Special Research) 400番台
基礎科目群	BS (Basic Subject) 100番台																										
専門科目群 共通科目	SCS (Specialized subjects Common Subject) 200番台																										
領域科目: 臨床検査学領域	SCL (Specialized subjects Clinical Laboratory) 310番台																										
領域科目: 理学療法学領域	SPT (Specialized subjects Physical Therapy) 320番台																										
特別研究	SR (Special Research) 400番台																										
基礎科目群	BS (Basic Subject) 100番台																										
専門科目群 共通科目	SCS (Specialized subjects Common Subject) 200番台																										
領域科目: 臨床検査学領域	SCL (Specialized subjects Clinical Laboratory) 310番台																										
領域科目: 理学療法学領域	SPT (Specialized subjects Physical Therapy) 320番台																										
特別研究	SR (Special Research) 400番台																										

(是正事項) 医療保健学研究科 医療保健学専攻 (M)

2. 審査意見1のとおり、ディプロマ・ポリシーに掲げる「高い専門性や「質の高い医療技術」が具体的にどのようなことを想定しているのか判然としないため、ディプロマ・ポリシーに整合した教育課程が適切に編成され、各授業科目の到達目標が適切に設定されているとは判断することができない。このため、審査意見1への対応を踏まえつつ、本専攻の教育課程や各授業科目の到達目標が妥当であることについて、明確かつ具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見1への回答のとおり、本研究科の人材養成の目的とディプロマ・ポリシーの関係性から、人材養成の目的に追記することによって、ディプロマ・ポリシーの内容も明確になったことに伴い、審査意見2におけるご指摘を踏まえて、「設置の趣旨等を記載した書類(本文)」「(4) 養成する人材像と3つのポリシーの相関及び整合性」の記載内容を改めて確認し、より具体的な内容に追記・修正することとした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (本文)

新	旧
<p>(4) 養成する人材像と3つのポリシーの相関及び整合性</p> <p>本学の使命・目的及び本研究科の教育理念、人材養成の目的に基づき策定されたディプロマ・ポリシーを達成するため、カリキュラム・ポリシーを定め、カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を編成している。</p> <p><u>カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの相関については、ディプロマ・ポリシーに定める取得すべき能力と整合する理解すべき知識・技術及び教育課程にある各科目区分をカリキュラム・ポリシーに示しており、ディプロマ・ポリシーと整合した教育課程が編成されている。さらに、各授業科目に示す概要・目的及び到達目標についても、カリキュラム・ポリシーに基づき各シラバスに記載されているとともに</u></p>	<p>(4) 養成する人材像と3つのポリシーの相関及び整合性</p> <p>本学の使命・目的及び本研究科の教育理念、人材養成の目的に基づき策定されたディプロマ・ポリシーを達成するため、カリキュラム・ポリシーを定め、カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を編成している。</p>

<p>に、各シラバスには、<u>ディプロマ・ポリシーとの関係性が示されている。</u></p> <p>また、アドミッション・ポリシーを示し、医療保健学をとおして健康社会の実現に貢献したいという意欲のある学生を広く受け入れる。このような考えのもと、3つのポリシーは一貫性のあるものとして策定されており、人材養成の目的及び3つのポリシーの各項目との相関及び整合性については、「医療保健学研究科人材養成の目的と3つのポリシー対応表」【資料5】に示すとおりである。</p> <p><u>なお、カリキュラム・ポリシーに基づき編成した教育課程に配置する各授業科目とディプロマ・ポリシーの関係性については、「医療保健学研究科医療保健学専攻カリキュラム・マップ」【資料6】に示すとおりである。</u></p>	<p>また、アドミッション・ポリシーを示し、医療保健学をとおして健康社会の実現に貢献したいという意欲のある学生を広く受け入れる。このような考えのもと、3つのポリシーは一貫性のあるものとして策定されており、人材養成の目的及び3つのポリシーの各項目との相関及び整合性については、「医療保健学研究科人材養成の目的と3つのポリシー対応表」【資料5】に示すとおりである。</p>
--	--

具体的には、本研究科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関係性については、人材養成の目的に基づき策定されたディプロマ・ポリシーに対応したカリキュラム・ポリシーとするため、ディプロマ・ポリシーと整合する修得すべき知識・技術が既に明示されており、また、カリキュラム・ポリシーには、教育課程にある各科目区分も各カリキュラム・ポリシーに明示されていることから、その関係性が明確に示されている。

また、「医療保健学研究科医療保健学専攻人材養成の目的と3つのポリシー対応表（一部修正）【資料5】」に示すとおり、本研究科における人材養成の目的からディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに至る整合については、人材養成の目的に具体的な表現を追記したことで、より一貫性が明確になったことから妥当であると考えられるが、各授業科目とディプロマ・ポリシーとの関係性を明確に示すため、「医療保健学研究科医療保健学専攻カリキュラム・マップ【資料6】」に係る説明を追記することとした。

なお、カリキュラム・ポリシーに対応する科目区分及び授業科目については、「設置の趣旨等を記載した書類（P9）」において以下のとおり、その整合性に言及している。

設置の趣旨等を記載した書類 P 9

#### 4 教育課程の編成の考え方及び特色（教育研究の柱となる領域（分野）の説明も含む。）

##### (2) カリキュラム・ポリシー(CP)の各項目と教育課程（各授業科目）の整合性

人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するために、カリキュラム・ポリシーを定め、体系的な教育課程を編成する。カリキュラム・ポリシーの教育課程編成（CP1～CP3）においては、対応する科目区分等を明記しており、以下のとおり各授業科目と整合している。

カリキュラム・ポリシーの各項目と授業科目の対応表

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成)		対応する科目区分	対応する授業科目
CP1	高度専門職業人として基盤となる医療保健学の幅広い知識と倫理観を修得するとともに、人体の機能を多面的に理解するために、「基盤科目群」「専門科目群（共通科目）」を配置する。	基盤科目群 専門科目群（共通科目）	医療保健学特論、医療保健学研究法特論、地域医療連携特論、病態生理学特論、健康医科学特論、医療統計学特論、疾患薬理学特論、健康心理学特論、教育方法学特論、臨床教育学特論、人体機能学特論、人体機能学演習
CP2	保健医療における課題及び臨床検査学、理学療法学の最新の研究動向を理解する能力を修得するために、「専門科目群（領域科目）」に各領域の専門的知識を修得する特論科目、技術の応用・実践力を修得する演習科目を配置する。	専門科目群（領域科目）	<臨床検査学領域> 病態分析検査学特論、病態分析検査学演習、感染制御学特論、感染制御学演習  <理学療法学領域> 運動機能回復学特論、運動機能回復学演習、生活機能回復学特論、生活機能回復学演習
CP3	医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、新たな知見に繋がる研究能力を修得するために、「特別研究」を配置する。	特別研究	医療保健学特別研究

さらに、シラバスに記載されている各授業の概要・目的及び授業の到達目標とディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの整合について確認を行い、妥当であることを確認することができたが、人材養成の目的に具体的かつより明確な表現を追記したことに伴い、次の科目の「授業の到達目標」についても、具体的な表現を追記することとした。

- ・「医療保健学特論」
- ・「人体機能学特論」、「人体機能学演習」
- ・「感染制御学特論」、「感染制御学演習」
- ・「運動機能回復学特論」、「運動機能回復学演習」
- ・「生活機能回復学特論」、「生活機能回復学演習」

なお、ディプロマ・ポリシーと各授業の到達目標との整合をより明確にするため、新たに各授業のシラバスに、カリキュラム・マップに基づく「ディプロマ・ポリシーとの関連」を

追記することとした。

以上のことから、人材養成の目的からディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、教育課程及び各授業科目の概要・目的、授業の到達目標に至るまで整合することから妥当であると考えている。

(新旧対照表) 医療保健学研究科医療保健学専攻シラバス

新		旧	
科目名：医療保健学特論 「授業の到達目標」 <ul style="list-style-type: none"> <li>生命・医療倫理の考えを養い、医療技術者の役割について理解する。</li> <li>我が国の保健医療の現状、地域医療構想について理解する。</li> <li>医療技術者として保健医療に携わる際の課題について理解する。</li> <li><u>医療技術者として地域の医療提供体制の環境改善に向けた具体的な検討を行うことができる。</u></li> </ul>		科目名：医療保健学特論 「授業の到達目標」 <ul style="list-style-type: none"> <li>生命・医療倫理の考えを養い、医療技術者の役割について理解する。</li> <li>我が国の保健医療の現状、地域医療構想について理解する。</li> <li>医療技術者として保健医療に携わる際の課題について理解する。</li> </ul>	
「ディプロマ・ポリシーとの関連」			
◎	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、 <u>医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</u>		
○	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、 <u>新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</u>		
	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、 <u>今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</u>		
科目名：医療保健学研究法特論 「ディプロマ・ポリシーとの関連」		科目名：医療保健学研究法特論	
◎	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、 <u>医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</u>		
△	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、 <u>新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</u>		
○	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、 <u>今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</u>		

<p>科目名：地域医療連携特論</p> <p>「ディプロマ・ポリシーとの関連」</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="240 360 304 450">○</td> <td data-bbox="312 360 783 450">DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 461 304 551">△</td> <td data-bbox="312 461 783 551">DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 562 304 651"></td> <td data-bbox="312 562 783 651">DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</td> </tr> </table>	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。	△	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。		DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。	<p>科目名：地域医療連携特論</p>
○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。						
△	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。						
	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。						
<p>科目名：病態生理学特論</p> <p>「ディプロマ・ポリシーとの関連」</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="240 752 304 842">○</td> <td data-bbox="312 752 783 842">DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 853 304 943">△</td> <td data-bbox="312 853 783 943">DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 954 304 1043"></td> <td data-bbox="312 954 783 1043">DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</td> </tr> </table>	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。	△	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。		DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。	<p>科目名：病態生理学特論</p>
○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。						
△	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。						
	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。						
<p>科目名：健康医科学特論</p> <p>「ディプロマ・ポリシーとの関連」</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="240 1144 304 1234">○</td> <td data-bbox="312 1144 783 1234">DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 1245 304 1335">△</td> <td data-bbox="312 1245 783 1335">DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 1346 304 1435"></td> <td data-bbox="312 1346 783 1435">DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</td> </tr> </table>	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。	△	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。		DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。	<p>科目名：健康医科学特論</p>
○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。						
△	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。						
	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。						
<p>科目名：医療統計学特論</p> <p>「ディプロマ・ポリシーとの関連」</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="240 1536 304 1626">○</td> <td data-bbox="312 1536 783 1626">DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 1637 304 1727">△</td> <td data-bbox="312 1637 783 1727">DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 1738 304 1827"></td> <td data-bbox="312 1738 783 1827">DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</td> </tr> </table>	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。	△	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。		DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。	<p>科目名：医療統計学特論</p>
○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。						
△	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。						
	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。						

<p>科目名：疾患薬理学特論</p> <p>「ディプロマ・ポリシーとの関連」</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="240 360 304 450">○</td> <td data-bbox="312 360 778 450">DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 461 304 551">△</td> <td data-bbox="312 461 778 551">DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 562 304 651"></td> <td data-bbox="312 562 778 651">DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</td> </tr> </table>	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。	△	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。		DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。	<p>科目名：疾患薬理学特論</p>
○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。						
△	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。						
	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。						
<p>科目名：健康心理学特論</p> <p>「ディプロマ・ポリシーとの関連」</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="240 752 304 842">○</td> <td data-bbox="312 752 778 842">DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 853 304 943">△</td> <td data-bbox="312 853 778 943">DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 954 304 1043"></td> <td data-bbox="312 954 778 1043">DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</td> </tr> </table>	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。	△	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。		DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。	<p>科目名：健康心理学特論</p>
○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。						
△	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。						
	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。						
<p>科目名：教育方法学特論</p> <p>「ディプロマ・ポリシーとの関連」</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="240 1133 304 1223">○</td> <td data-bbox="312 1133 778 1223">DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 1234 304 1323"></td> <td data-bbox="312 1234 778 1323">DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 1335 304 1424">△</td> <td data-bbox="312 1335 778 1424">DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</td> </tr> </table>	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。		DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。	△	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。	<p>科目名：教育方法学特論</p>
○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。						
	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。						
△	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。						
<p>科目名：臨床教育学特論</p> <p>「ディプロマ・ポリシーとの関連」</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="240 1525 304 1615">○</td> <td data-bbox="312 1525 778 1615">DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 1626 304 1715"></td> <td data-bbox="312 1626 778 1715">DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 1727 304 1816">△</td> <td data-bbox="312 1727 778 1816">DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</td> </tr> </table>	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。		DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。	△	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。	<p>科目名：臨床教育学特論</p>
○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。						
	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。						
△	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。						

<p>科目名：人体機能学特論</p> <p>「授業の到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生命維持を担う生理機能について、個体、臓器、細胞および分子レベルという観点から理解する。</li> <li>・ 人体が外界に適応するための生理機能について、個体、臓器、細胞および分子レベルという観点から理解する。</li> <li>・ 疾病や障害を有する場合の病態生理、機能について、個体、臓器、細胞および分子レベルという観点から理解する。</li> <li>・ <u>人体機能を個体、臓器、細胞および分子レベルの観点から理解したうえで、適切な医療技術や人体機能の解明方法について提案できる。</u></li> </ul>	<p>科目名：人体機能学特論</p> <p>「授業の到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生命維持を担う生理機能について、個体、臓器、細胞および分子レベルという観点から理解する。</li> <li>・ 人体が外界に適応するための生理機能について、個体、臓器、細胞および分子レベルという観点から理解する。</li> <li>・ 疾病や障害を有する場合の病態生理、機能について、個体、臓器、細胞および分子レベルという観点から理解する。</li> </ul>
<p>「ディプロマ・ポリシーとの関連」</p>	
<p>◎</p>	<p>DP1) <u>健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</u></p>
<p>○</p>	<p>DP2) <u>高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</u></p>
	<p>DP3) <u>科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</u></p>

<p>科目名：人体機能学演習</p> <p>「授業の到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複合疾患や複合障害を有する人間の生体反応について理解する。</li> <li>・ 複合疾患や複合障害を有する者を含む人間の生体反応を解明していく方法について理解する。</li> <li>・ <u>複合疾患、複合障害を有する人体機能を理解したうえで、適切な医療技術の検証や医療保健学分野の研究を遂行することができる。</u></li> </ul> <p>「ディプロマ・ポリシーとの関連」</p> <table border="1" data-bbox="240 887 778 1182"> <tr> <td style="text-align: center;">◎</td> <td>DP1) <u>健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td>DP2) <u>高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</u></td> </tr> <tr> <td></td> <td>DP3) <u>科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</u></td> </tr> </table>	◎	DP1) <u>健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</u>	○	DP2) <u>高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</u>		DP3) <u>科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</u>	<p>科目名：人体機能学演習</p> <p>「授業の到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複合疾患や複合障害を有する人間の生体反応について理解する。</li> <li>・ 複合疾患や複合障害を有する者を含む人間の生体反応を解明していく方法について理解する。</li> </ul>
◎	DP1) <u>健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</u>						
○	DP2) <u>高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</u>						
	DP3) <u>科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</u>						
<p>科目名：病態分析検査学特論</p> <p>「ディプロマ・ポリシーとの関連」</p> <table border="1" data-bbox="240 1276 778 1570"> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td>DP1) <u>健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">◎</td> <td>DP2) <u>高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">△</td> <td>DP3) <u>科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</u></td> </tr> </table>	○	DP1) <u>健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</u>	◎	DP2) <u>高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</u>	△	DP3) <u>科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</u>	<p>科目名：病態分析検査学特論</p>
○	DP1) <u>健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</u>						
◎	DP2) <u>高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</u>						
△	DP3) <u>科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</u>						
<p>科目名：病態分析検査学演習</p> <p>「ディプロマ・ポリシーとの関連」</p> <table border="1" data-bbox="240 1664 778 1955"> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td>DP1) <u>健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">◎</td> <td>DP2) <u>高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td>DP3) <u>科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</u></td> </tr> </table>	○	DP1) <u>健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</u>	◎	DP2) <u>高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</u>	○	DP3) <u>科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</u>	<p>科目名：病態分析検査学演習</p>
○	DP1) <u>健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</u>						
◎	DP2) <u>高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</u>						
○	DP3) <u>科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</u>						

<p>科目名：感染制御学特論</p> <p>「授業の到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染症の予防・診断 <u>の動向</u> について説明が出来る。</li> <li>・ ウイルス、細菌、寄生虫が起因する <u>感染症の発症機序</u> について説明できる。</li> <li>・ <u>修得した専門知識に基づき、感染制御に関する課題改善に向けた具体的な検討、提案を行うことができる。</u></li> </ul> <p>「ディプロマ・ポリシーとの関連」</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="240 790 304 887">○</td> <td data-bbox="304 790 778 887">DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 887 304 985">◎</td> <td data-bbox="304 887 778 985">DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 985 304 1081">△</td> <td data-bbox="304 985 778 1081">DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</td> </tr> </table>	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。	◎	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。	△	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。	<p>科目名：感染制御学特論</p> <p>「授業の到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染症の予防・診断について説明が出来る。</li> <li>・ ウイルス、細菌、寄生虫が起因する <u>各種感染症</u> について説明できる。</li> <li>・ <u>各種感染症の診断、予防について説明</u> できる。</li> </ul>
○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。						
◎	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。						
△	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。						
<p>科目名：感染制御学演習</p> <p>「授業の到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病原体の取扱い、培養同定技術について説明できる。</li> <li>・ 遺伝子診断、組換えなど遺伝子を用いた基礎的技術について説明できる。</li> <li>・ 感染症の診断結果の妥当性について判断と説明ができる。</li> <li>・ <u>医療現場における感染制御の課題改善に向けた具体的な提案を行うことができる。</u></li> </ul> <p>「ディプロマ・ポリシーとの関連」</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="240 1709 304 1805">○</td> <td data-bbox="304 1709 778 1805">DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 1805 304 1904">◎</td> <td data-bbox="304 1805 778 1904">DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 1904 304 1995">○</td> <td data-bbox="304 1904 778 1995">DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</td> </tr> </table>	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。	◎	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。	○	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。	<p>科目名：感染制御学演習</p> <p>「授業の到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病原体の取扱い、培養同定技術について説明できる。</li> <li>・ 遺伝子診断、組換えなど遺伝子を用いた基礎的技術について説明できる。</li> <li>・ 感染症の診断結果の妥当性について判断と説明ができる。</li> </ul>
○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。						
◎	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。						
○	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。						

<p>科目名：運動機能回復学特論</p> <p>「授業の到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動機能の回復に関連する最新の知見と課題を理解する。</li> <li>身体運動機能の回復に関係する基礎的な研究方法を修得する。</li> <li>これまで実施してきた理学療法の問題点と改善方法について提案できる。</li> </ul> <p>「ディプロマ・ポリシーとの関連」</p> <table border="1" data-bbox="240 741 778 1032"> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td>DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">◎</td> <td>DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">△</td> <td>DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</td> </tr> </table>	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。	◎	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。	△	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。	<p>科目名：運動機能回復学特論</p> <p>「授業の到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動機能の回復に関連する最新の知見とその探索方法を理解する。</li> <li>これまで実施してきた理学療法の問題点と改善方法について提案できる。</li> </ul>
○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。						
◎	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。						
△	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。						
<p>科目名：運動機能回復学演習</p> <p>「授業の到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動機能障害事例における諸問題の解決に向けた具体的方法を想起できる。</li> <li>運動機能障害に対する理学療法における課題とその改善のための具体的かつ科学的な方法を提案できる。</li> </ul> <p>「ディプロマ・ポリシーとの関連」</p> <table border="1" data-bbox="240 1464 778 1756"> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td>DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">◎</td> <td>DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td>DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</td> </tr> </table>	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。	◎	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。	○	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。	<p>科目名：運動機能回復学演習</p> <p>「授業の到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動機能障害事例における回復の阻害因子について考察できる。</li> <li>運動機能回復の具体的方法について想起できる。</li> </ul>
○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。						
◎	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。						
○	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。						

<p>科目名：生活機能回復学特論</p> <p>「授業の到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活機能の回復に関連する最新の知見と課題を理解する。</li> <li>生活機能の回復に関係する基礎的な研究方法を修得する。</li> <li>これまで実施してきた理学療法の問題点と改善方法について提案できる。</li> </ul> <p>「ディプロマ・ポリシーとの関連」</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="240 741 304 837">○</td> <td data-bbox="304 741 778 837">DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 837 304 934">◎</td> <td data-bbox="304 837 778 934">DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 934 304 1032">△</td> <td data-bbox="304 934 778 1032">DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</td> </tr> </table>	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。	◎	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。	△	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。	<p>科目名：生活機能回復学特論</p> <p>「授業の到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活機能の回復に関連する最新の知見とその探索方法を理解する。</li> <li>これまで実施してきた理学療法の問題点と改善方法について提案できる。</li> </ul>
○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。						
◎	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。						
△	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。						
<p>科目名：生活機能回復学演習</p> <p>「授業の到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活機能障害事例における諸問題の解決に向けた具体的方法を想起できる。</li> <li>生活機能障害に対する理学療法の課題とその改善のための具体的かつ科学的な方法を提案できる。</li> </ul> <p>「ディプロマ・ポリシーとの関連」</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="240 1464 304 1561">○</td> <td data-bbox="304 1464 778 1561">DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 1561 304 1657">◎</td> <td data-bbox="304 1561 778 1657">DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 1657 304 1756">○</td> <td data-bbox="304 1657 778 1756">DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</td> </tr> </table>	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。	◎	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。	○	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。	<p>科目名：生活機能回復学演習</p> <p>「授業の到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活機能障害事例における回復の阻害因子について考察できる。</li> <li>生活機能回復の具体的方法について想起できる。</li> </ul>
○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。						
◎	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。						
○	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。						

科目名：医療保健学特別研究 「ディプロマ・ポリシーとの関連」		科目名：医療保健学特別研究
○	DP1) <u>健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。</u>	
○	DP2) <u>高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</u>	
◎	DP3) <u>科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</u>	

資料1 「医療保健学研究科医療保健学専攻 シラバス」

(改善事項) 医療保健学研究科 医療保健学専攻 (M)

3. 「領域科目」の授業科目「病態分析検査学演習」のシラバスを確認すると、授業計画に「討議」が含まれているが、本専攻の入学定員は3人であり、領域ごとの学生数の内訳に関する説明がなく、当該科目を選択する者が1人になった場合「討議」を行うことができない状況が想定されるため、教育効果を十分にあげられる授業計画になっているのか疑義がある。このため科目選択をする学生が1人になった場合に、どのようにして教育効果を担保することを想定しているのかについて具体的に説明すること。

(対応)

ご指摘にありました「病態分析検査学演習」シラバスの授業計画(第6回～第9回)に記載しております「討議」につきましては、授業設計段階から同回担当教員が「討議」に参加する授業運営を計画しており、当該科目を選択する者が1人になった場合でも、当初の授業設計どおり、同回担当教員と履修者による「討議」が実施可能であることから、教育効果に遜色なく運用できるものと考えている。

(是正事項) 医療保健学研究科 医療保健学専攻 (M)

4. 「設置の趣旨等を記載した書類(本文)」の「9(1)①2) 選抜方法」において、「筆記試験(外国語(英語))、面接(口述試験を含む)、出願書類(志願理由書等)等による総合判定とする。」と記載しているが、「等」の内容が判然としないことから、ここで示されている選抜方法以外の選抜方法が不明確である。このため、入学者選抜を公正に実施する観点から、入学志願者に対して選抜方法を明確に示す必要があることを踏まえ、選抜方法が明確になるよう適切に改めること。

(対応)

「設置の趣旨等を記載した書類(本文)」の「9(1)①2) 選抜方法」において、「筆記試験(外国語(英語))、面接(口述試験を含む)、出願書類(志望理由書等)等による総合判定とする。」との記載について、先ず「出願書類(志望理由書等)」については、本学が計画する出願時の書類として、「志望理由書」の他に、出身大学の「卒業(見込)証明書」「成績証明書」を包含する出願関係書類を想定していたが、改めて確認を行い、可否の総合判定に必要な書類として、「成績証明書」を含める計画であることから、「出願書類(成績証明書及び志望理由書)」と修正することとした。

次に、「出願書類(志望理由書等)等による」については、文末に記載した「総合判定」に係る全項目(筆記試験、面接(口述試験を含む)、出願書類(志望理由書等))を包含した意味を指しており、これら以外の選抜方法がないことから、ご指摘のとおり、入学志願者に対して明確に示す観点から、当該箇所から「等」を削除することとした。

なお、審査意見5におけるご指摘への対応として、「9(1)①2) 選抜方法」に記載されていた「筆記試験(外国語(英語))」については、(外国語(英語))を削除することとした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類(本文)

新	旧
<p>9 入学者選抜の概要</p> <p>(1) 入学者選抜方法</p> <p>①一般選抜</p> <p>2) 選抜方法</p> <p>筆記試験、面接(口述試験含む)、出願書類(成績証明書及び志望理由書)による総合判定とする。</p>	<p>9 入学者選抜の概要</p> <p>(1) 入学者選抜方法</p> <p>①一般選抜</p> <p>2) 選抜方法</p> <p>筆記試験(外国語(英語))、面接(口述試験含む)、出願書類(志望理由書等)等による総合判定とする。</p>

(是正事項) 医療保健学研究科 医療保健学専攻 (M)

5. 「設置の趣旨等を記載した書類(本文)」の「1(3)⑤アドミッション・ポリシー」において、「1)臨床検査学、理学療法学及び関連領域の基礎的な知識・技術を有している人(AP1)」と説明しており、同資料の「9(1)①3)APと一般入試の関係性」において、AP1を判定する方法の一部として「筆記試験(外国語(英語))」が設定されているが、AP1と外国語(英語)との関連についての説明がなく、一般入試にのみ当該評価方法を設けている理由が判然としない。このため、本専攻が定めるAP1を踏まえ、一般選抜が適切に実施されることについて具体的に説明した上で、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

ご指摘のありました、「筆記試験(外国語(英語))」については、当初の計画において、大学院での研究活動を行ううえで、臨床検査学、理学療法学及び関連領域の基礎的な知識・技術に加え、国内外の先行研究を調査し、理解するための語学(英語)力が必要であるとの考えから、「外国語(英語)」で実施する試験がAP1と関連するものと設定していたが、一般選抜で実施する「筆記試験」の評価の重点が「臨床検査学、理学療法学及び関連領域の基礎的な知識・技術」であることを改めて確認し、その意図をより明確にするため英語ではなく日本語での試験に変更することとした。

なお、「筆記試験」を英語から日本語による試験に変更することとしたが、「筆記試験」の重点が「臨床検査学、理学療法学及び関連領域の基礎的知識・技術」を評価することに変わらないため、「筆記試験」に関連するAPについては、これまでどおり「AP1」とする。

また、上述のとおり、大学院における研究活動を実施するにあたり、語学(英語)力が求められることから、一般選抜及び社会人選抜にて実施する「面接(口述試験)」の中において語学(英語)力の確認を行うこととした。なお、「面接(口述試験)」における語学(英語)力の確認方法については、英語による口述試験を実施するのではなく、出願書類の成績証明書からこれまでの英語に関する履修歴を確認するとともに、同じく出願書類の履歴・研究歴に関する書類から海外での活動経験の有無を確認する。また、語学検定のスコア票など語学運用能力を示す書類の提出も認めることとし(提出任意)、語学力の確認に活用する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (本文)

新	旧																																
<p>9 入学者選抜の概要</p> <p>(1) 入学者選抜方法</p> <p>①一般選抜</p> <p>2) 選抜方法</p> <p>筆記試験、面接(口述試験を含む)、出願書類(成績証明書及び志望理由書)による総合判定とする。</p> <p>3) AP と一般入試との関係性</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">評価方法</th> <th style="text-align: center;">AP1</th> <th style="text-align: center;">AP2</th> <th style="text-align: center;">AP3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">筆記試験</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">面接(口述試験)</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">出願書類</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価方法	AP1	AP2	AP3	筆記試験	○			面接(口述試験)	○	○	○	出願書類	○	○		<p>9 入学者選抜の概要</p> <p>(1) 入学者選抜方法</p> <p>①一般選抜</p> <p>2) 選抜方法</p> <p>筆記試験(外国語(英語))、面接(口述試験を含む)、出願書類(志望理由書等)等による総合判定とする。</p> <p>3) AP と一般入試との関係性</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">評価方法</th> <th style="text-align: center;">AP1</th> <th style="text-align: center;">AP2</th> <th style="text-align: center;">AP3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">筆記試験(外国語(英語))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">面接(口述試験)</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">出願書類</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価方法	AP1	AP2	AP3	筆記試験(外国語(英語))	○			面接(口述試験)	○	○	○	出願書類	○	○	
評価方法	AP1	AP2	AP3																														
筆記試験	○																																
面接(口述試験)	○	○	○																														
出願書類	○	○																															
評価方法	AP1	AP2	AP3																														
筆記試験(外国語(英語))	○																																
面接(口述試験)	○	○	○																														
出願書類	○	○																															

(是正事項) 医療保健学研究科 医療保健学専攻 (M)

6. 「設置の趣旨等を記載した書類(本文)」の「12(2)校舎等施設の整備計画」において、「太陽が丘3号棟及び4号棟は、講義室、演習室、実験研究室、実習室、実習用機器・備品が整備されており、各施設及び備品を学部と共用する。」と説明しているが、本専攻の研究領域ごとに必要な実習用機器や備品が適切に整備されているか判然としない。このため、研究領域ごとに整備されている実習用機器や備品を明らかにした上で、本専攻の教育研究に支障がないことを具体的に説明すること。

(対応)

ご指摘のとおり、「設置の趣旨等を記載した書類(本文)」の「12(2)校舎等施設の整備計画」において、太陽が丘3号棟及び4号棟の各施設における既設の実習用機器・備品について、具体的に明示されていなかったことから、「設置の趣旨等を記載した書類(本文)」の「12(2)校舎等施設の整備計画」の記載内容を改めて確認し、「校地校舎等図面」の「太陽が丘キャンパス3号棟」及び「太陽が丘キャンパス4号棟」において、「医療保健学部・医療保健学研究科共用」と示した各実験研究室等に整備されている既設実習用機器・備品一覧「【資料18:太陽が丘3号棟(206H、207H、208H)及び4号棟(101R、104R、208R、209R、210R、305R、306R)実習用機器・備品一覧】」を新たに追加することとした。

また、同資料において、各領域及び特別研究に配置する授業科目の教育研究活動に必要な実習用機器・備品が整備されていることを明らかにするため、各実習用機器・備品に関係する領域を併記した。なお、授業形式として講義を行う場合の対応としては、可動式の机・椅子が整備されている「太陽が丘4号棟3階セミナー室(2室:各26人収容)」も学部との共用としている。

以上のとおり、各実験研究室等に適切な実習用機器・備品が整備されていることから、本研究科の教育研究活動に支障はないと考えている。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類(本文)

新	旧
12 施設, 設備等の整備計画 (2) 校地等施設の整備計画 <u>【資料18:太陽が丘3号棟(206H、207H、208H)及び4号棟(101R、104R、208R、209R、210R、305R、306R)実習用機器・備品一覧】</u>	12 施設, 設備等の整備計画 (2) 校地等施設の整備計画

資料2 「資料18:太陽が丘3号棟(206H、207H、208H)及び4号棟(101R、104R、208R、209R、210R、305R、306R)実習用機器・備品一覧」

なお、「資料18：太陽が丘3号棟（206H、207H、208H）及び4号棟（101R、104R、208R、209R、210R、305R、306R）実習用機器・備品一覧」を追加したことにより、以降の資料番号を繰り下げた。

資料番号繰り下げ後の資料順は以下のとおり。

【資料 19：学生用研究室の見取図】

【資料 20：電子ジャーナル一覧】

(是正事項) 医療保健学研究科 医療保健学専攻 (M)

7. 「設置の趣旨等を記載した書類(資料)」の「資料6 医療保健学研究科 医療保健学専攻カリキュラム・マップ」において、例えば「医療保健学研究法特論」はDP1に強く関連(◎)、DP2にやや関連(△)、DP3に関連(○)と表記されている一方で、同書類の「資料5 医療保健学研究科医療保健学専攻 人材養成の目的と3つのポリシー対応表」においては、「医療保健学研究法特論」が位置づけられているCP1からDP3には矢印が伸びていない。また、資料6において「医療保健学特論」はDP1に強く関連(◎)、DP2に関連(○)と表記されている一方で、同書類の「資料7 医療保健学研究科医療保健学専攻 カリキュラム・ツリー」においては、「医療保健学特論」からDP3にも矢印が伸びている。これら資料間で不整合が見受けられるため、申請書類の不整合について、網羅的に確認した上で、適切に改めること。

(対応)

「設置の趣旨等を記載した書類(資料)」の「資料5 医療保健学研究科医療保健学専攻 人材養成の目的と3つのポリシー対応表」「資料6 医療保健学研究科 医療保健学専攻カリキュラム・マップ」及び「資料7 医療保健学研究科医療保健学専攻 カリキュラム・ツリー」の関係性、さらに申請書類における整合を網羅的に確認したところ、ご指摘のとおり、「資料5 医療保健学研究科医療保健学専攻 人材養成の目的と3つのポリシー対応表」「資料6 医療保健学研究科 医療保健学専攻カリキュラム・マップ」及び「資料7 医療保健学研究科医療保健学専攻 カリキュラム・ツリー」の各資料間において不整合が確認されたため、整合する表記に改めた。

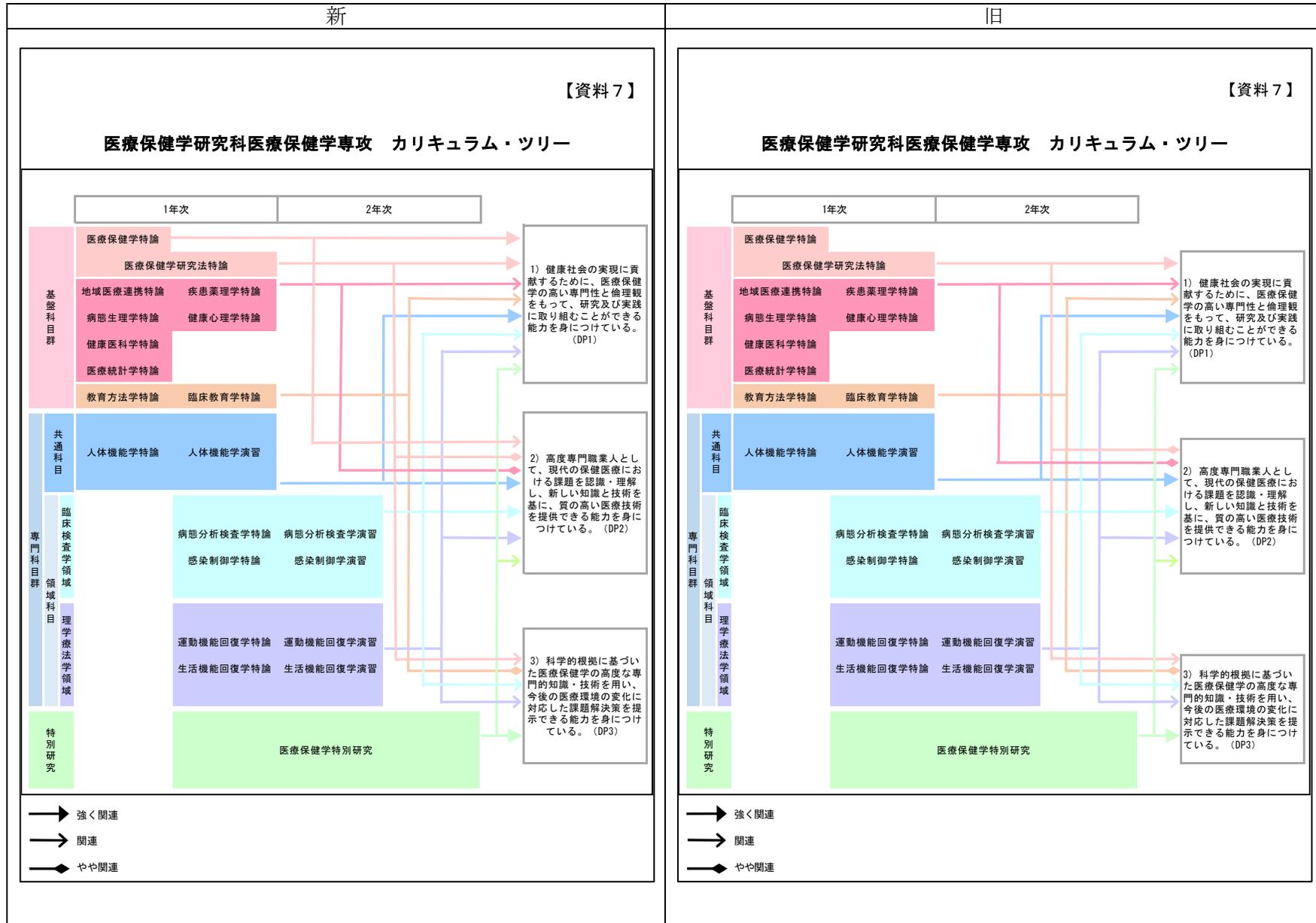
具体的には、「資料6 医療保健学研究科 医療保健学専攻カリキュラム・マップ」に記載した各授業科目とディプロマ・ポリシーの関連に不整合が無いことを確認し、同資料を基本として、「資料5 医療保健学研究科医療保健学専攻 人材養成の目的と3つのポリシー対応表」において、CP1からDP3に伸びる矢印を追記した。

同じく、「資料6 医療保健学研究科 医療保健学専攻カリキュラム・マップ」を基本として、「資料7 医療保健学研究科医療保健学専攻 カリキュラム・ツリー」において、現行「医療保健学特論」及び「医療保健学研究法特論」の両科目から各DPに伸びていた矢印については、対象を「医療保健学研究法特論」とし、「医療保健学特論」からは、新たにDP1と強く関係する矢印、DP2と関連する矢印を追記した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料) 資料5 医療保健学研究科医療保健学専攻人材養成の目的と3つのポリシー対応表

(36 ページ)

新		旧							
【資料5】 医療保健学研究科医療保健学専攻 人材養成の目的と3つのポリシー対応表		【資料5】 医療保健学研究科医療保健学専攻 人材養成の目的と3つのポリシー対応表							
<b>教育理念</b>	健康社会の実現に貢献できる高度な医療技術者の養成をとおして、地域社会の保健・医療・福祉の向上に寄与する。	<b>教育理念</b>	健康社会の実現に貢献できる高度な医療技術者の養成をとおして、地域社会の保健・医療・福祉の向上に寄与する。						
<b>人材養成の目的</b>	臨床検査学や理学療法学の領域において、健康増進、疾病・障害の予防、保健活動や生活技術などの役割と必要性を理解し、保健医療や地域医療の課題、医療や介護現場の変化に対応できる高い専門性を有し、臨床現場を科学的に分析する研究法と科学的根拠に基づいた課題解決力・実践力を身に付け、質の高い医療技術を提供できる下記領域の高度専門職業人を養成する。 【臨床検査学領域】 臨床現場で検査情報を有効活用するための専門的知識及び分析技術、感染症の原因及び感染制御に関する専門的知識、臨床現場における課題を解決するための研究手法を修得し、科学的根拠に基づき、状況に応じた医療技術と課題解決策を提供できる人材を養成する。 【理学療法学領域】 運動器系に起因する身体運動機能障害及び先天障害や認知症、発達障害を含む心身機能の障害や加齢等に起因する生活機能障害の専門的知識、技術、臨床現場における課題を解決するための研究手法を修得し、科学的根拠に基づき、状況に応じた医療技術と課題解決策を提供できる人材を養成する。	<b>人材養成の目的</b>	医療保健学に関する高度な専門的知識と研究能力・実践力を身に付け、質の高い医療を提供できる高度専門職業人を養成する。						
<b>ディプロマ・ポリシー</b>	<p>本研究科では、人材養成の目的に沿って以下の要件を満たし、学位の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査及び試験に合格した者に対し、修士(医療保健学)の学位を授与する。</p> <table border="1"> <tr> <td style="width: 25%;">DP1 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組みることができる能力を身につけている。</td> <td style="width: 25%;">DP2 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術の基盤に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</td> <td style="width: 25%;">DP3 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</td> </tr> </table>	DP1 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組みることができる能力を身につけている。	DP2 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術の基盤に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。	DP3 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。	<b>ディプロマ・ポリシー</b>	<p>本研究科では、人材養成の目的に沿って以下の要件を満たし、学位の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査及び試験に合格した者に対し、修士(医療保健学)の学位を授与する。</p> <table border="1"> <tr> <td style="width: 25%;">DPI 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組みることができる能力を身につけている。</td> <td style="width: 25%;">DP2 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術の基盤に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。</td> <td style="width: 25%;">DP3 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。</td> </tr> </table>	DPI 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組みることができる能力を身につけている。	DP2 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術の基盤に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。	DP3 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。
DP1 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組みることができる能力を身につけている。	DP2 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術の基盤に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。	DP3 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。							
DPI 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組みることができる能力を身につけている。	DP2 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術の基盤に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。	DP3 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。							
<b>カリキュラム・ポリシー</b>	<p>本研究科では、人材養成の目的を達成するために以下の方針に基づいて教育課程を構成する。また、学生の履修を支援するために、シラバスとともに、科目間の連続性や学習の順序をカリキュラム・マップ、履修モデル等で明示する。</p> <table border="1"> <tr> <td style="width: 33%;">CP1 高度専門職業人として基礎となる医療保健学の幅広い知識と倫理観を修得するとともに、人体の機能を多面的に理解するために、「基礎科目群」「専門科目群(共通科目)」を配置する。</td> <td style="width: 33%;">CP2 保健医療における課題及び臨床検査学、理学療法学の最新の研究動向を理解する能力を修得するために、「専門科目群(領域科目)」に各領域の専門的知識を修得する特論科目、技術の応用・実践力を修得する演習科目を配置する。</td> <td style="width: 33%;">CP3 医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、新たな知見に繋がる研究能力を修得するために、「特別研究」を配置する。</td> </tr> </table> <p>【基礎科目群】 医療保健学特論、医療保健学研究法特論、地域医療実務特論、保健学特論、健康科学特論、医療統計学特論、疾患薬理学特論、健康心理学特論、教育方法学特論、臨床教育学特論</p> <p>【専門科目群(共通科目)】 人体機能学特論、人体機能学演習</p> <p>【専門科目群(領域科目)】 病態分析検査学特論、病態分析検査学演習、感染制御学特論、感染制御学演習、運動機能回復学特論、運動機能回復学演習、生活機能回復学特論、生活機能回復学演習</p> <p>【特別研究】 医療保健学特別研究</p>	CP1 高度専門職業人として基礎となる医療保健学の幅広い知識と倫理観を修得するとともに、人体の機能を多面的に理解するために、「基礎科目群」「専門科目群(共通科目)」を配置する。	CP2 保健医療における課題及び臨床検査学、理学療法学の最新の研究動向を理解する能力を修得するために、「専門科目群(領域科目)」に各領域の専門的知識を修得する特論科目、技術の応用・実践力を修得する演習科目を配置する。	CP3 医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、新たな知見に繋がる研究能力を修得するために、「特別研究」を配置する。	<b>カリキュラム・ポリシー</b>	<p>本研究科では、人材養成の目的を達成するために以下の方針に基づいて教育課程を構成する。また、学生の履修を支援するために、シラバスとともに、科目間の連続性や学習の順序をカリキュラム・マップ、履修モデル等で明示する。</p> <table border="1"> <tr> <td style="width: 33%;">CP1 高度専門職業人として基礎となる医療保健学の幅広い知識と倫理観を修得するとともに、人体の機能を多面的に理解するために、「基礎科目群」「専門科目群(共通科目)」を配置する。</td> <td style="width: 33%;">CP2 保健医療における課題及び臨床検査学、理学療法学の最新の研究動向を理解する能力を修得するために、「専門科目群(領域科目)」に各領域の専門的知識を修得する特論科目、技術の応用・実践力を修得する演習科目を配置する。</td> <td style="width: 33%;">CP3 医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、新たな知見に繋がる研究能力を修得するために、「特別研究」を配置する。</td> </tr> </table> <p>【基礎科目群】 医療保健学特論、医療保健学研究法特論、地域医療実務特論、疾患学特論、健康科学特論、医療統計学特論、疾患薬理学特論、健康心理学特論、教育方法学特論、臨床教育学特論</p> <p>【専門科目群(共通科目)】 人体機能学特論、人体機能学演習</p> <p>【専門科目群(領域科目)】 病態分析検査学特論、病態分析検査学演習、感染制御学特論、感染制御学演習、運動機能回復学特論、運動機能回復学演習、生活機能回復学特論、生活機能回復学演習</p> <p>【特別研究】 医療保健学特別研究</p>	CP1 高度専門職業人として基礎となる医療保健学の幅広い知識と倫理観を修得するとともに、人体の機能を多面的に理解するために、「基礎科目群」「専門科目群(共通科目)」を配置する。	CP2 保健医療における課題及び臨床検査学、理学療法学の最新の研究動向を理解する能力を修得するために、「専門科目群(領域科目)」に各領域の専門的知識を修得する特論科目、技術の応用・実践力を修得する演習科目を配置する。	CP3 医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、新たな知見に繋がる研究能力を修得するために、「特別研究」を配置する。
CP1 高度専門職業人として基礎となる医療保健学の幅広い知識と倫理観を修得するとともに、人体の機能を多面的に理解するために、「基礎科目群」「専門科目群(共通科目)」を配置する。	CP2 保健医療における課題及び臨床検査学、理学療法学の最新の研究動向を理解する能力を修得するために、「専門科目群(領域科目)」に各領域の専門的知識を修得する特論科目、技術の応用・実践力を修得する演習科目を配置する。	CP3 医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、新たな知見に繋がる研究能力を修得するために、「特別研究」を配置する。							
CP1 高度専門職業人として基礎となる医療保健学の幅広い知識と倫理観を修得するとともに、人体の機能を多面的に理解するために、「基礎科目群」「専門科目群(共通科目)」を配置する。	CP2 保健医療における課題及び臨床検査学、理学療法学の最新の研究動向を理解する能力を修得するために、「専門科目群(領域科目)」に各領域の専門的知識を修得する特論科目、技術の応用・実践力を修得する演習科目を配置する。	CP3 医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、新たな知見に繋がる研究能力を修得するために、「特別研究」を配置する。							
<b>アドミッション・ポリシー</b>	<p>本研究科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために、以下の能力、目的意識、意欲を持った人を広く受け入れる。</p> <table border="1"> <tr> <td style="width: 33%;">AP1 臨床検査学、理学療法学及び関連領域の基礎的な知識・技術を有している人</td> <td style="width: 33%;">AP2 高度専門職業人として、研究活動や医療技術の提供を通じて、健康社会の実現に貢献したいという意欲がある人</td> <td style="width: 33%;">AP3 自己及び他者を尊重し、優れたコミュニケーション能力を有する人</td> </tr> </table>	AP1 臨床検査学、理学療法学及び関連領域の基礎的な知識・技術を有している人	AP2 高度専門職業人として、研究活動や医療技術の提供を通じて、健康社会の実現に貢献したいという意欲がある人	AP3 自己及び他者を尊重し、優れたコミュニケーション能力を有する人	<b>アドミッション・ポリシー</b>	<p>本研究科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために、以下の能力、目的意識、意欲を持った人を広く受け入れる。</p> <table border="1"> <tr> <td style="width: 33%;">AP1 臨床検査学、理学療法学及び関連領域の基礎的な知識・技術を有している人</td> <td style="width: 33%;">AP2 高度専門職業人として、研究活動や医療技術の提供を通じて、健康社会の実現に貢献したいという意欲がある人</td> <td style="width: 33%;">AP3 自己及び他者を尊重し、優れたコミュニケーション能力を有する人</td> </tr> </table>	AP1 臨床検査学、理学療法学及び関連領域の基礎的な知識・技術を有している人	AP2 高度専門職業人として、研究活動や医療技術の提供を通じて、健康社会の実現に貢献したいという意欲がある人	AP3 自己及び他者を尊重し、優れたコミュニケーション能力を有する人
AP1 臨床検査学、理学療法学及び関連領域の基礎的な知識・技術を有している人	AP2 高度専門職業人として、研究活動や医療技術の提供を通じて、健康社会の実現に貢献したいという意欲がある人	AP3 自己及び他者を尊重し、優れたコミュニケーション能力を有する人							
AP1 臨床検査学、理学療法学及び関連領域の基礎的な知識・技術を有している人	AP2 高度専門職業人として、研究活動や医療技術の提供を通じて、健康社会の実現に貢献したいという意欲がある人	AP3 自己及び他者を尊重し、優れたコミュニケーション能力を有する人							



資料3 「資料5：医療保健学研究科医療保健学専攻 人材養成の目的と3つのポリシー対応表」

資料4 「資料7：医療保健学研究科医療保健学専攻カリキュラム・ツリー」

(改善事項) 医療保健学研究科 医療保健学専攻 (M)

8. シラバスによると、「生活機能回復学特論」と「生活機能回復学演習」の「授業の概要と目的」において、同一の説明がなされているため、両科目の違いが判然としない。このため、当該授業科目の内容に照らし適切な表現に改めることが望ましい。

(対応)

ご指摘のとおり、「生活機能回復学特論」と「生活機能回復学演習」のシラバス「授業の概要と目的」に記載された内容が同一であったため、改めて確認し、「生活機能回復学演習」の「授業の概要と目的」については、「別記様式第2号(その3の1) 授業科目の概要」及び「様式第4号・別添 担当予定授業科目 授業科目の内容」に記載されている「概要」が正しい内容であることから、シラバスに記載した「授業の概要と目的」を適切な表現に改めた。

(新旧対照表) 医療保健学研究科医療保健学専攻シラバス

新	旧
<p>・生活機能回復学演習 「授業の概要と目的」 <u>生活機能回復学特論で修得した理論を軸として、生活機能の様々な構成要素及び先進デバイスに関する臨床的な症例報告論文や効果・分析方法に関する論文を通じて、生活機能の回復過程とその評価及び支援方法についての実践的な考察を深め、生活機能回復に関する問題点の具体化と改善方法に関して探求し討論していく。</u></p>	<p>・生活機能回復学演習 「授業の概要と目的」 <u>先天障害や認知症、発達障害を含む心身機能の障害や加齢等に起因する生活機能障害について専門的理解を促進し、生活機能の回復に関する方法論及び臨床場面での問題を解決するための基礎的な研究手法を修得することを目的に、生活機能を構成する心身機能、身体構造、活動、参加、環境因子、個人因子に関連する国内外の文献を渉猟し、最新の知見に関する知識を深めるとともに、臨床所見を科学的に捉えるために必要な研究法を教授する。また、介護領域におけるロボットなどを用いた臨床研究に関する理解も深める。これらを通じて、生活機能の低下及び喪失からの回復への新たなリハビリテーション手段の検討・開発につながるよう内容を発展させる。</u></p>

資料1 「医療保健学研究科医療保健学専攻 シラバス「生活機能回復学演習」